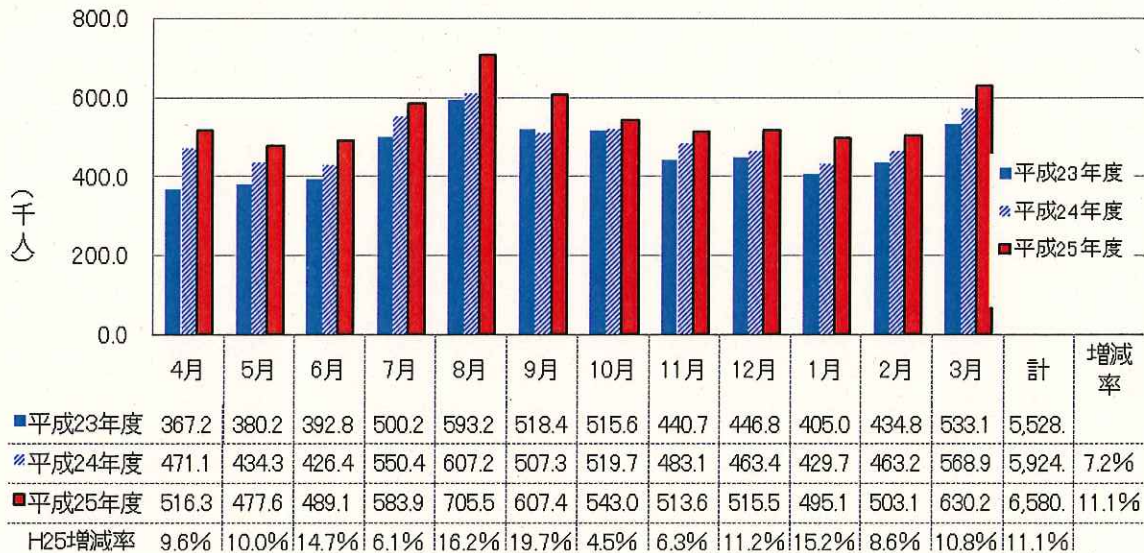


# 平成 25 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課  
平成 26 年 4 月発表

平成 25 年度の観光客数は、**658 万 300 人**で過去最高  
対前年度 (H24) 比 +65 万 5,600 人、+11.1%

## ■月別入域観光客数の推移（平成 23 年度～平成 25 年度）



## ■平成 25 年度の概況（総括）

平成 25 年度の入域観光客数は 658 万 300 人で、対前年比 65 万 5,600 人増加、率にして 11.1%の増加となり、これまでの過去最高であった平成 20 年度の 593 万 4,300 人を大きく上回る観光客数を記録した。

前年度と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- ① 景況感の上向きによる国内旅行需要の拡大
- ② 円安による国内客の国内旅行需要へのシフト及び外国客の訪日旅行需要の拡大
- ③ 南ぬ島石垣空港の開港
- ④ 国内・海外航空路線の拡充
- ⑤ 官民一体となったプロモーション活動
- ⑥ 沖縄本島への台風接近の減

## ■平成 26 年度の見通し

景気回復基調にあることに加え、円安も継続すると予想されており、国内旅行市場は活況を維持するとみられる。国内では、東京ディズニーリゾートなど一部前年からの人気が続く方面はあるが、伊丹-那覇路線の拡充、福岡-石垣路線の運航期間拡大など、航空路線の拡充が計画されていることから、沖縄への旅行需要は継続するとみられる。

外国客については、那覇空港の新国際線ターミナルビル及び那覇港の旅客ターミナル供用開始などハード面の整備に加え、台湾や香港の航空路線が拡充されたことや、クルーズ船の寄港回数の増が予定されていることから、26 年度も安定的に増加するものと見込まれる。

また、6月の「Diving & Resort Travel EXPO 沖縄」や、8月の世界空手道連盟プレミアリーグなどのイベントの開催が国内外客の誘客につながるものと期待している。

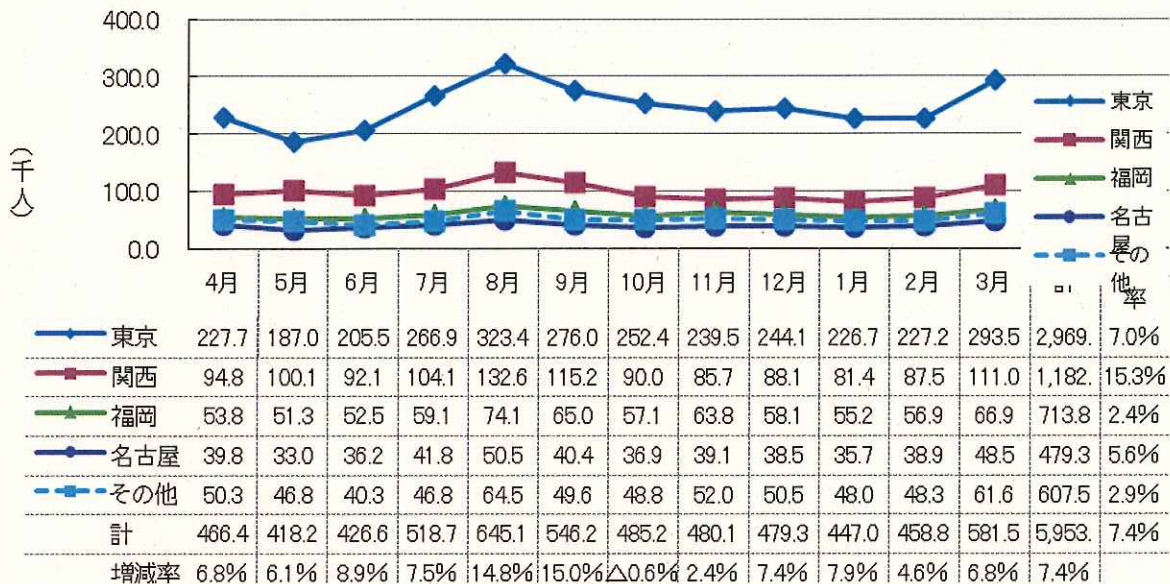


## 国内観光客の動向

### ■入域観光客数（国内）

平成 25 年度の国内客は、595 万 3,100 人で、前年比で 41 万 900 人増、7.4%の増となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 19 年度の 570 万 3,500 人。

### ■平成 25 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



### ■国内観光客の概況

円安に伴い、国内旅行市場は割高感のある海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしたことに加え、景況感が上向いたことが旅行需要増に拍車をかけた。また、平成 24 年度と比べて3連休が2回多く（6回→8回、GW・年末年始除く）、旅行意欲にプラスに働いたとみられる。これらの動向を背景に、国内LCCの沖縄路線就航（成田、関西）による誘客効果が継続されたこと、3月の南ぬ島石垣空港開港により石垣島発着の航空路線が拡充したことが入込増の大きな要因と考えられる。

#### 【方面別の動向】

- 東京方面** 各キャリアの路線拡充により、年間を通して増加。南ぬ島石垣空港の開港効果で、羽田-石垣路線の提供座席数が倍増し、石垣島及び周辺離島への入込も増加した。
- 関西方面** ジェットスター・ジャパン及びピーチ・アビエーションの路線就航の影響を大きく受けた上、利便性のよい伊丹-那覇路線も座席数が増え、入込が大幅に増加した。
- 福岡方面** 福岡-那覇路線の一部機材小型化等により提供座席数が増えず、他方面への旅行需要に押され、微増となった。
- 名古屋方面** 中部-石垣路線が通年運航となり、提供座席数が大幅に増加。その影響で石垣島及び周辺離島への旅行が人気であった。



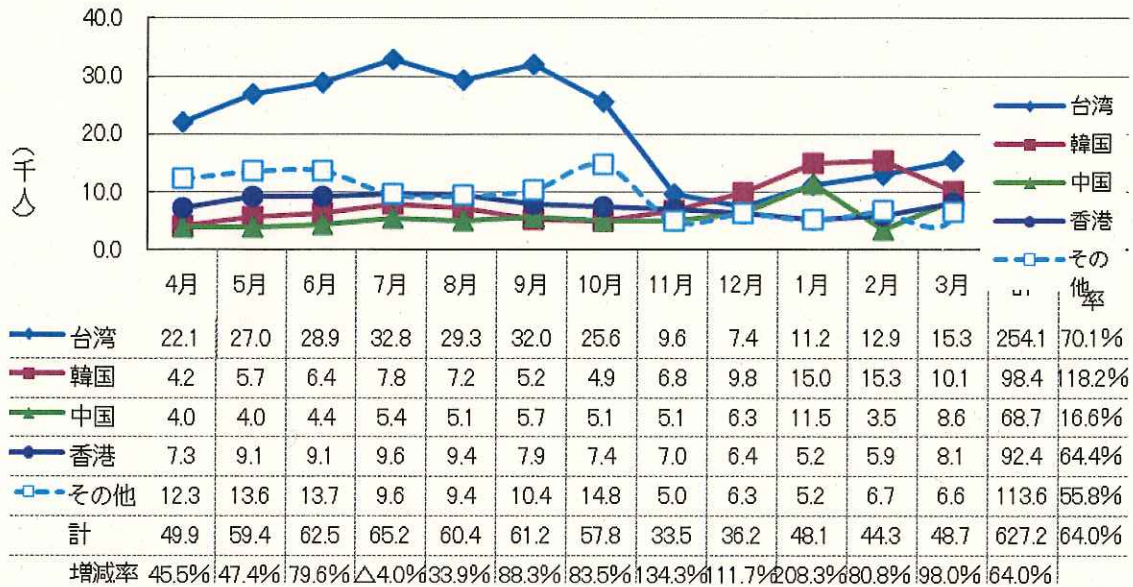
## 外国人観光客の動向

### ■入域観光客数（外国）

平成 25 年度の外国客は、62 万 7,200 人で、前年比で 24 万 4,700 人増、64.0%の増となり、国内客同様に過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 24 年度の 38 万 2,500 人。

なお、クルーズ船の乗務員等を除いた外国客は、54 万 4,900 人であった。

### ■平成 25 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



### ■外国人観光客の概況

円安に伴い、割安感のある訪日旅行需要が拡大したことに加え、航空路線が拡充したことが入込の大きな要因と考えられる。台湾、韓国、香港は安定して増加、中国本土についても、路線の再開やクルーズ船寄港により徐々に回復しており、いずれも過去最高の入込となった。

また、ビザ免除国のシンガポールに加え、ASEAN諸国へのビザ発給緩和を背景に、タイ、マレーシアからの入込も増えつつある。

#### 【国籍別の動向】

**台湾** 夏期は、台北-那覇、台北-石垣路線の拡充により、空路客を中心に増加。冬期は夏期の好調さからの落ち込みが目立つものの、全体としては過去最高の 25.4 万人の入込を記録。

**韓国** ソウル-那覇路線の拡充、釜山-那覇路線の定期便就航したことに加え、キャリアの競合により航空運賃やツアー価格が低下し、旅行需要が増加。夏期も一定の入込があった上、冬期については大幅に増加。

**中国本土** 北京-那覇路線の再開、上海-那覇路線の新規キャリア就航、クルーズ船寄港により、徐々に回復しており、前年度を上回った。空路での入込は安定している。

**香港** 訪日旅行需要が旺盛で、年間を通して入込が増加し、冬期も夏期と同じ機材が利用されたため例年より落ち込みが小幅であった。